

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-180	13-307	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Long-term alcohol and caffeine intake and risk of sudden cardiac death in women. 長期のアルコールとカフェイン摂取と女性における心突然死のリスク。		
執筆者		
Bertoia ML1, Triche EW, Michaud DS, Baylin A, Hogan JW, Neuhaus ML, Freiberg MS, Allison MA, Safford MM, Li W, Mossavar-Rahmani Y, Rosal MC, Eaton CB.		
掲載誌		
Am J Clin Nutr. 2013 Jun;97(6):1356-63.		
キーワード		
アルコール、カフェイン、心臓死		
要 旨		
<p>背景</p> <p>アルコールとカフェイン摂取は、コレステロール、血圧、心拍変動性と炎症に対する効果があり、心突然死 (SCD) の発現で一役を担っている可能性がある。</p> <p>目的</p> <p>我々の目的は、女性における長期のアルコールとカフェイン摂取の関係と心突然死のリスクを調べることである。</p> <p>デザイン</p> <p>我々は、Women's Health Initiative Observational Study に参加した 93,676 人の閉経後女性を研究対象とした。これらの被験者は 1993~1998 年に登録して、2009 年 8 月まで追跡された。女性は試験開始時と 3 年後に食物・頻度アンケートに記入した。我々は、次の 3 つの方法でアルコールへの暴露についてモデル化した：開始時のベースライン摂取量、ベースラインおよび 3 年後の累積平均摂取量、最近の摂取量 (単純時間変化分析)。</p> <p>結果</p> <p>5-15g のアルコール/日 (約 1 ドリンク) の摂取は、年齢、人種、収入、喫煙、肥満指数、身体活動、ホルモンの使用と総エネルギー摂取量を調整した上、0.1-5g/日と比較して、SCD の統計的に有意でないリスクの減少と関係していた。ベースライン摂取量で (HR : 0.64;95%CI : 0.40, 1.02)、累積的平均摂取量で (HR : 0.69;95%CI : 0.43, 1.11)、そして、最近の飲酒で (HR : 0.58;95%CI : 0.35, 0.96) であった。SCD とカフェインとの関連では、カフェイン全摂取量 (mg/d)、カフェイン含有コーヒーの飲量、カフェインレスコーヒーとカフェイン含有のお茶との間にみられなかった。</p> <p>結論：</p> <p>我々の結果は、1 日につき約 1 杯の飲物 (または 5.1-15g/d) がこの集団で SCD のリスクの減少と関係している場合があることを示唆する;しかしながら、この関連は、ごく最近のアルコール摂取を使用しているモデルだけで、統計的に有意であった。全カフェイン量、レギュラーコーヒー、カフェイン抜きコーヒー、普通のお茶の摂取は、SCD のリスクと関係していなかった。本研究は、NCT00000611 として clinicaltrials.gov で登録された。</p>		